

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

取組の概要

取組の概要 : 効率的な機械作業体系の構築により、適正な輪作体系を確立し、販売額の増加を図る。

計画作成主体 : 佐呂間町農業再生協議会
対象品目 : 大豆(産地面積:45ha)
主な取組主体 : 佐呂間町大豆生産利用組合
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
助成金の活用 : 生産支援事業(機械リース)
状況 (収穫機 2台)

ポイント

生産組織の収穫機導入により、労働力不足に起因する小麦の過作傾向を解消し、実需者ニーズの高い大豆への転換を図ることで、適正な輪作体系を確立。また、低温障害に強い「とよみづき」に品種を統一し、適期収穫と一体的な品質向上を図ることで、販売額の10%以上の増加を実現。

地区の概要



産地の現状と目標

〈現状:H27年度〉

作付面積 : 1.1ha、出荷数量 : 2.3 t
過作傾向の小麦の連作障害により収益性の低下と、適正な輪作体系の維持が困難

〈目標:H31年度〉

作付面積 : 45ha、出荷数量 : 90.4 t
実需者ニーズの高い大豆栽培の導入による収益性の向上と適正な輪作体系の確立



推進体制

地域の関係者(佐呂間町、JAサロマ、農業改良普及センター、農業関係者等)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

過作である小麦の一部を大豆に転換、低温障害に強い品種「とよみづき」を導入、関係機関等による巡回調査に基づく適期作業等の技術指導、栽培技術の統一による安定生産と品質の向上

〈道・市町村単独事業〉

「地域づくり総合交付金事業(道)」によりJAサロマが農業担い手宿泊施設を整備し、就農希望者を地域農業者へ研修派遣するなど実践的な研修活動を実施

事業効果

生産組織による収穫機のリース導入により、実需者ニーズに対応した大豆の生産拡大と適期収穫等による品質向上を図り、適正な輪作体系の確立と販売額の増加により、産地収益力の強化を実現。

～大豆の販売額の増加～

